

授業科目名・形態	児童・家庭福祉論	講義	必修・選択の別	選択	単位数	2
科目担当者氏名	中里 操		実務経験の有無	無	開講期	2年前期

【授業の主題】

近年、我が国では子どもの貧困問題がクローズアップされている。またが学校や地域の中でいじめによる自殺や不登校、引きこもりが増加している。児童相談所に寄せられる児童虐待の相談も増えている。子どもが安心して過ごせる居場所が少ないのかも知れない。子どもの生活への社会的関心が薄れているのかも知れない。社会福祉の問題は、いつの時代も社会の一番弱い部分に、姿を変えて現れる。授業では、子どもと家庭・地域社会の現状と課題に対する支援制度を学ぶ。

【到達目標】

1. 児童・家庭の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、児童福祉・子育ての福祉ニーズについて理解する。
2. 子ども家庭福祉制度の歴史を通して子ども家庭福祉問題が生まれるメカニズムについて理解する。
3. 子どもと家族の生活権を保障する、保障させるソーシャルワーカーとしての実践力養う。
4. 子ども家庭福祉問題への専門職対応として必要な相談援助活動に必要な問題認識力と問題の緩和・解決に必要な児童・家庭福祉制度や関連する施策・法制度について理解する。

【授業計画・内容】

- 第1回 児童・家庭福祉とは (児童・家庭が抱える課題を、福祉問題として認識するための視点について)
- 第2回 児童・家庭福祉の歴史 (児童・家庭福祉の理念・原理の形成と制度の発達・変遷)
- 第3回 子育てと児童福祉を取り巻く現代社会の構造
- 第4回 児童・家庭福祉の支援の基盤と実施体制① (児童・家庭福祉の法制度、児童・家庭福祉の行財政)
- 第5回 児童・家庭福祉の支援の基盤と実施体制② (関係機関と施設、利用方式、専門職と他職種連携)
- 第6回 子どもの福祉課題と支援① (子育て・児童福祉支援の施策)
- 第7回 子どもの福祉課題と支援② (母子保健システムと保育保障)
- 第8回 子どもの福祉課題と支援③ (保育制度の歴史、保育制度の概要、保育制度の課題と展望)
- 第9回 子どもの福祉課題と支援④ (要保護事業と在宅支援の現状、支援のポイント)
- 第10回 子どもの福祉課題と支援⑤ (児童虐待と家族関係、児童虐待の現状と対応)
- 第11回 子どもの福祉課題と支援⑥ (社会的養護、子どもの貧困、生活保護と進路問題)
- 第12回 子どもの育ちと家庭生活⑦ (ひとり親家庭の現状と対策・支援、課題)
- 第13回 子どもの育ちと家庭生活⑧ (ドメスティック・バイオレンスと女性支援、スクールソーシャルワーク)
- 第14回 子どもの育ちと家庭生活⑨ (少年の非行問題、若者支援)
- 第15回 子どもの福祉課題と支援⑦ (子ども家庭福祉とソーシャルアクション)

(注) 児童ソーシャルワークの理論と技術、実践事例は講義の中で適宜取り上げる。

【授業実施方法】

講義を中心に実施するが、認識を深めるために視聴覚教材を活用する。

【授業準備】

前回の講義内容を復習する。講義予定内容を読み、専門用語など解らないこと、疑問点などを整理しておく。講義中に取り上げたテーマなどを自ら文献に当たるなどして確認する。児童福祉関連のニュースに関心を寄せ、自分なりの理解と説明ができる状態で主体的に学習の準備をする。

【主な関連する科目】

社会福祉概論、公的扶助論、ソーシャルワークの

【教科書等】

最新・社会福祉士養成講座『児童・家庭福祉』中央法規出版

【参考資料、文献】

ビデオ資料等紹介、貸し出しする。

【成績評価方法】

授業への取り組み姿勢 10%、提出レポート 30%、期末試験の成績 60%の総合評価とする。

【学生へのメッセージ】

子どもたちの成長を支える社会システムの構築に向けた基盤となる科目です。自分の生活に重ね合わせながら、地域社会の中で起きている児童問題に関心を寄せてください。子どもに体現する事象の奥にある、見えない福祉要因を探ってください。通年で学ぶ内容を半期で学修するため、学生自身の子ども・家庭福祉問題に対する関心と事前学修が大切です。児童福祉分野、保育士資格を目指す人の積極的学修を期待します。ビデオ教材によるレポートがあります。